

国語辞書の使用状況とことばの意識

The use situation of Japanese dictionaries and consciousness of languages

秋山智美
Satomi Akiyama

1. はじめに

現代人は、ことばに関して分からないことがあったとき、どうしているのでしょうか。近年は、インターネットの普及により気軽にウェブで調べることが多いように感じる。しかしながら、ウェブばかりでは分からないことも多い。そのようなとき、辞書を用いると便利である。

本稿は、現代人の国語辞書の利用やことばに関する意識をきいたものである。荻野ほか(2006)においても辞書の利用方法や利用意識をきいている。荻野ほか(2006)によると、現代人は分からないことが出てきた場合、ウェブを利用することが多いという。では、「国語辞書を使うとき」はどのようなときだろうか。

今回、国語辞書の使用状況やことばの意識についてきいたものを報告したい。

2. 調査の概要

調査は、2009年8月20日から9月2日にわたっておこなった。方法としては、質問紙調査である。

20代から60代までの社会人や学生といった人々に協力してもらった。配布数は、120枚であり、回収数は106枚であった。回収率は、88%である。

質問項目は、国語辞書の知名度、所持、日本語でわからないことがあったら何を使うか、新語や流行語、慣用句についてなど10問を聞いた。本稿では、それらの結果についていくつかを報告する。

まず、調査者についてみよう。

表1. は、性別と年代である。20代と50代・60代は、男性の方が多く、30代・40代は女性の方が多い。

表2. は性別と居住地を示したものである。回答者には、東京都に居住する人が60人と多く、次に埼玉県が18人、神奈川県、千葉県に12人ずつと東京近郊に居住する回答者が多い。比較的、都市部に住む居住者が回答しているといえる。

表3. は、年代と職業である。全体のうち、学生の回答者が36人と多く、会社員も技術系、事務系であわせて22人いる。「その他」という人は定年退職した人などである。